

【学部・学科の「卒業認定・学位授与の方針」】

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 商学部

商学部では、学生が、経営、経営情報、流通マーケティング、国際ビジネス、会計の商学分野における専門的な知識・技能を修得し、さらに、それらの「『知』に基づいた行動力」を身につけることのできる教育を目指している。この目標を達成するために編成された各学科、コースの教育課程を修め、成績評価を経て、卒業時に次のような能力を身につけたと認められる学生に対して、学士（商学）の学位を授与する。

- ア. 経営、経営情報、流通マーケティング、国際ビジネス、会計分野の専門的知識・技能、及び幅広い教養を身につけ、その知識・技能を活用して問題を発見し、課題を解決する能力。
- イ. 他者と協働して学ぶ姿勢、そして個人及びチームとしての思考力とプレゼンテーション能力。
- ウ. 世界の社会や文化を理解し、グローバルな現場で活躍するための基礎的なコミュニケーション能力。

(1) 経営学科

経営学科は、幅広い教養、コミュニケーション能力、ITリテラシーなどを身につけ、経営学の基礎的な知識を修得したうえ、本学科が設置する「経営」「経営情報」「流通マーケティング」の3コースが扱う専門分野のいずれかについて十分な専門知識と技能、問題発見・課題解決能力をもち、ビジネスの世界で活躍できる人材の育成を教育目標とする。

各コースの卒業認定・学位授与の方針は以下のとおりであり、商学部及び各コースで求められた知識・技能を身につけた学生に学士（商学）の学位を授与する。

<経営コース>

企業経営に関する歴史、戦略、組織のあり方、人的資源の管理方法、ベンチャー・ビジネス、企業の社会的責任（CSR）など、経営に関する多角的な知識、技能を充分身につけていること。

<経営情報コース>

経営学に関する基礎知識に加え、ITの進歩に対応した企業経営に貢献し、またIT活用型の事業を行う上でも不可欠な経営情報の分析能力やITスキルを充分身につけていること。

<流通マーケティングコース>

小売業をはじめとする流通業やサービス業の経営・販売実務、また、製造業などの商品開発や販売促進などのマーケティングに関する専門知識・技能を充分身につけていること。

【学部・学科の「卒業認定・学位授与の方針」】

本学科の教育課程を修め、以上の方針により学位を取得した学生は、製造、金融、卸売、企業向けサービス、小売、消費者向けサービス、行政、非営利団体など、多様な企業や組織で社会人としてのキャリアをスタートし、能力を発揮できる。

<経営コース>

経営に関する多角的な知識・技能を活用し、企業などの幅広い部門で活躍できる。

<経営情報コース>

経営情報の分析能力やITスキルを活用し、とくにそれらを必要とする企業、部門、職種で活躍できる。

<流通マーケティングコース>

流通やマーケティングに関する専門知識・技能により、営業、マーケティング系の部門、職種で活躍できる。

(2) 国際ビジネス学科

国際ビジネスとは、ヒト・モノ・カネ・情報、つまり経営資源を、国境を超えて結び付け、組み合わせることで、社会や人々の課題解決や状況改善に貢献し対価を得る活動である。そのような国際ビジネスの舞台上で活躍できる人材を育成することこそが国際ビジネス学科の教育目標である。

本学科の卒業認定・学位授与の方針は以下のとおりであり、商学部及び本学科で修得を目指す知識・技能を身につけた学生に学士（商学）の学位を授与する。

- ア. 貿易・サービスに関連するビジネスの専門知識を充分身につけていること。
- イ. 英語に代表される実践的な言語運用能力を充分身につけていること。
- ウ. ビジネス・コミュニケーションの知識・技能を充分身につけていること。

国際ビジネスの舞台は、海外だけでなく、日本国内にも広がっている。さまざまな国に存在するチャンスを結び付けることで課題解決や状況改善を行うという国際ビジネスの本質は、ビジネスの現場に留まらず、地方活性化や貧困問題など、さまざまな社会的問題の解決や改善に対しても大きな可能性をもっている。このように、本学科で修得したビジネスの専門的な知識・センス及び外国人とのコミュニケーション能力を活用できる舞台は大きく、さまざまな社会的要請に応えられる。

(3) 会計学科

会計に関する専門的知識と技能を身につけ、企業等が作成する各種の会計情報を効果的に利用しながら幅広くビジネス社会で活躍することのできる人材の育成が本学科の教育目標である。

本学科の卒業認定・学位授与の方針は以下のとおりであり、商学部及び本学科で修得を目指す知識・能力を身につけた学生に学士（商学）の学位を授与する。

【学部・学科の「卒業認定・学位授与の方針」】

- ア. ビジネス社会における会計情報の役割、また企業会計を支える各種企業法制度の仕組みを充分理解していること。
- イ. 会計分野の専門知識を活かした問題発見能力や分析能力、判断力を充分身につけていること。
- ウ. 国際的視野に立って異文化を理解し、コミュニケーションをはかる能力を充分身につけていること。
- エ. 高い倫理観と責任感を有し、組織内で多様な人々と協力して業務を遂行できる能力を充分身につけていること。

本学科の教育課程を修め、以上の方針により学位を取得した学生は、公認会計士や税理士などの職業的会計人（会計のプロフェッショナル）のみならず、証券アナリスト、ファイナンシャル・プランナー、国税専門官、企業の財務・経理担当者、企業会計に精通したビジネスマンなどとして、幅広く活躍することが期待される。

2. 政経学部

政経学部において「積極進取の気概とあらゆる民族から敬慕されるに値する教養と品格」という建学の精神は、グローバリゼーションの深化によって国際化の波が国内にも浸透しつつある中、外国語と法律学・政治学・経済学の知識を基盤に、将来的な発展可能性に富む国や組織が直面する課題に、現場で人々と協働して具体的な解決策を模索し、その実現を図っていく姿勢の重視として受け継がれて来た。

こうした姿勢を具体化するため、特定の国や組織が抱える課題を学問的に理解し相対化する専門性や、実際の人間的接触の中で言語や民族、伝統・風習・習慣等の違いを乗り越えて協働しうる国際性・専門性・人間性の涵養が、学位授与の前提である。

(1) 法律政治学科

法律政治学科では、理論・実証双方にわたる法律学・政治学的思考枠組みとその汎用的応用能力の修得を念頭に、とりわけ以下の各項目の習熟度を総合的に勘案し、学士（法律政治学）の学位を授与する。

- ア. 現実の法律・政治現象を理解する能力を身につけるとともに、他者と協働の上、それを実際の問題解決に活用できること。
- イ. 修得した外国語とそれを使用する国・地域の基礎的な知識を有し、法律学・政治学の視点から状況を相対化して、取り組むべき課題を発見できること。

こうした枠組みの下で学修することにより、学生には建学の理念である海外雄飛のみならず、国内においても政界や法曹界、国家公務員や地方公務員、国際社会を視野に事業を展開する出版やマスコミ等の民間部門で、多様な民族・文化への高度な対応力を有し現場を支える人材としての道が拓けている。

(2) 経済学科

【学部・学科の「卒業認定・学位授与の方針」】

経済学科では、理論・実証双方にわたる経済学的思考枠組みとその汎用的応用能力の修得を念頭に、とりわけ以下の各項目の習熟度を総合的に勘案し、学士（経済学）の学位を授与する。

- ア．現実の経済現象を理解する能力を身につけるとともに、他者と協働の上、それを実際の問題解決に活用できること。
- イ．修得した外国語とそれを使用する国・地域の基礎的な知識を有し、経済学の視点から状況を相対化して、取り組むべき課題を発見できること。

こうした枠組みの下で学修することにより、学生には建学の理念である海外雄飛のみならず、国内においても国際社会との関わりが深い公益事業や流通・金融・サービス・IT・製造等の各分野で、多様な民族・文化への高度な対応力を有し現場を支える人材としての道が拓けている。

3. 外国語学部

外国語学部は、言語についてその仕組みや機能を明快に説明できる専門的能力を修得させ、単に読み・書き・話し・聞くことができるだけでなく、言語学・文学・歴史・芸術などの専門分野において、知的コミュニケーションができる当該言語運用能力を修得させ、優れた語学の力と国際感覚を持ち、自国の言語、文化、社会をしっかりと理解した上で、他国の文化を尊重し、相互理解に導く力を持った人を育てるよう、十分な教育・研究指導を行い、各学科が示す到達目標に達した学生に当該学科の学士の学位を授与する。

(1)英米語学科

英米語学科は、実践的で正確な英語力とコミュニケーション能力を持ち、世界的視野から自国と異なる文化を理解し、受け入れ、コミュニケーションを行いながら、世界の人々の交流に着実に貢献できる人となるよう、十分な教育・研究指導を行い、以下のような到達目標に達した学生に対して学士（英米語）の学位を授与する。

- ア．英語に関する専門的知識を修得し、その知識を応用して正確なコミュニケーションを行う、あるいはその知識を英語教育などの活動に活かす能力を身につける。
- イ．社会生活での幅広い話題について自由に話ができ、明確かつ詳細に自分の意見を表現できる言語運用能力と論理力、知識を修得する。
- ウ．第二外国語について、聴く・話す・読む・書くことができる言語運用能力と知識を修得する。
- エ．修得した言語運用能力と、教養教育で培われた知識を活かし、異文化を理解、尊重し、世界の人々と協働して諸問題を解決しようとする姿勢を持つ。
- オ．自ら目標を設定し、その目標を達成する過程の中で、自律的に学ぶ力を養う。

【学部・学科の「卒業認定・学位授与の方針」】

英米語学科は、通訳・翻訳や児童英語教育の素養を持った学生を育て、高い英語力を駆使して文化交流、観光案内、ボランティアならびにビジネスにおけるさまざまな分野で活躍できる卒業生を送り出し、日本人全般の英語運用能力の向上と日本の国際化に貢献する。

(2) 中国語学科

中国語学科は、実践的で正確な中国語力とコミュニケーション能力を持ち、世界的視野から自国と異なる文化を理解し、受け入れ、コミュニケーションを行いながら、世界の人々の交流に着実に貢献できる学生に学士（中国語）の学位を授与する。到達目標は以下のとおりである。

- ア. 中国語に関する専門的知識を修得し、その知識を応用して正確なコミュニケーションを行う、あるいはその知識を中国語教育などの活動に活かす能力を身につける。
- イ. 中国語力に関しては、社会生活での幅広い話題について自由に話ができ、明確かつ詳細に自分の意見を表現できる言語運用能力と論理力、知識を修得する。
- ウ. 第二外国語について、聴く・話す・読む・書くことができる言語運用能力と知識を修得する。
- エ. 修得した言語運用能力と、教養教育で培われた知識を活かし、異文化を理解、尊重し、世界の人々と協働して諸問題を解決しようとする姿勢を持つ。
- オ. 自ら目標を設定し、その目標を達成する過程の中で、自律的に学ぶ力を養う。

中国語学科は、通訳・翻訳の素養を持った学生を育て、高い中国語能力を駆使して文化交流、観光案内、ボランティアならびにビジネスにおけるさまざまな分野で活躍できる卒業生を送り出し、日本と中国語圏との良好な関係の構築と維持、ならびに日本の国際化に貢献する。

(3) スペイン語学科

スペイン語学科は、実践的で正確なスペイン語力とコミュニケーション能力を持ち、世界的視野から自国と異なる文化を理解し、受け入れ、コミュニケーションを行いながら、世界の人々の交流に着実に貢献できる学生に学士（スペイン語）の学位を授与する。到達目標は以下のとおりである。

- ア. スペイン語に関する専門的知識を修得し、その知識を応用して正確なコミュニケーションを行う、あるいはその知識をスペイン語教育などの活動に活かす能力を身につける。
- イ. スペイン語力に関しては、社会生活での幅広い話題について自由に話ができ、明確かつ詳細に自分の意見を表現できる言語運用能力と論理力、知識を修得する。
- ウ. 第二外国語について、聴く・話す・読む・書くことができる言語運用能力と知識を修得する。
- エ. 修得した言語運用能力と、教養教育で培われた知識を活かし、異文化を理解、尊重し、世界の人々と協働して諸問題を解決しようとする姿勢を持つ。

【学部・学科の「卒業認定・学位授与の方針」】

オ. 自ら目標を設定し、その目標を達成する過程の中で、自律的に学ぶ力を養う。

スペイン語学科は、通訳・翻訳の素養を持った学生を育て、高いスペイン語能力を駆使して文化交流、観光案内、ボランティアならびにビジネスにおけるさまざまな分野で活躍できる卒業生を送り出し、日本とスペイン語圏との良好な関係の構築と維持、ならびに日本の国際化に貢献する。

4. 工学部

工学部では、「ものづくり」に興味を持ち、自ら進んで学び、技術を身に付け、品格と教養を備えたエンジニアやデザイナーの育成を目標に教育・研究活動を行っており、各学科所定の課程を修め、以下のような到達目標に達した学生に対し、厳格な成績評価のもとに学士（工学）の学位を授与する。

- ア. 基礎学力と幅広い教養を備え、企業におけるエンジニアやデザイナーとして活躍できるような工学に関する専門的な知識と技術を修得している。
- イ. 国際化する社会で、「ものづくり」を通じて協働できるコミュニケーション能力を持っている。
- ウ. 新しい技術を修得し、自らのエンジニアやデザイナーとしての能力向上に積極的に取り組む素養を身に付けている。
- エ. 学修した専門的知識・技術を総合して課題解決できる能力を有することを示すために、4年生の必修科目として卒業研究に取り組み、卒業論文審査に合格すること。

(1) 機械システム工学科

機械システム工学領域の基本的な知識と技術、専門的知識と応用力、国際社会で協働できるコミュニケーション能力や主体的に考える力及び社会人基礎力を備えたうえで、以下のような到達目標に達した学生に学位を授与する。

ア. 教養・基礎学力

専門的な知識のみでなく、学士として必要な教養を身につけている。

イ. 専門知識・技術

- ・ 企業におけるエンジニアとして期待される人材養成のために設定された機械工学とその周辺技術の学修を通して幅広い視野を培い、自らが進んで社会の発展のために貢献する気構えを持っている。
- ・ 機械部品の図面の読み描きや加工法について、基本的な能力と技術を有している。
- ・ 機械工学の実験について、機器の操作や計測を円滑に行うことができ、観測された現象について工学的に考察できる能力を有している。

ウ. コミュニケーション能力

国際化する社会の中で、機械工学の知識を生かしながら、コミュニケーションをとることのできる能力を有している。

【学部・学科の「卒業認定・学位授与の方針」】

エ. 総合課題解決能力

体系的に身につけた知識・技術を総合して問題を分析し、これを解決することができる。

機械システム工学科の教育課程を修め、上述の到達目標に十分達したと認められた学位取得者は、機械工学分野の設計、製造、保守・整備や新しい技術の研究開発において活躍することができ、わが国の発展に貢献できる。

(2) 電子システム工学科

電子システム工学領域の3つの能力、すなわち、「基本的な知識と実践的な技術」、「問題発生時の分析・解決力などの専門的な知識と応用力」、「国際社会で協働できるコミュニケーション能力や主体的に考える力及び社会人基礎力」をバランスよく兼ね備えたうえで、以下のような到達目標に達した学生に学位を授与する。

ア. 教養・基礎学力

工学における全般的な基礎知識を有し、社会の様々な要請に応えるための必要な教養を身につけている。

イ. 専門知識・技術

電子システム工学領域の全体に共通する基本的な知識と実践的な技術を身につけていて、エンジニアとして活躍できる。また、電子システム工学の各領域における専門的な知識を身につけ、それを応用することができる。

ウ. コミュニケーション能力・社会人基礎力

国際化する社会の中で、電子システム工学の知識を活かしながら、コミュニケーションをとって協働することができる。また、自ら考え抜く力を培い、自分の考えを的確に表現することができる能力を身につける。

エ. 総合課題解決能力

体系的に身につけた知識・技術を総合して問題を分析し、これを解決することができる。

電子システム工学科の教育課程を修め、上述の到達目標に十分達したと認められた学位取得者は、電子情報通信工学分野の設計、生産、保守・整備や新しい技術の研究開発において活躍することができ、わが国の発展に貢献できる。

(3) 情報工学科

情報工学領域の基本的知識と専門的知識、コンピュータ及びネットワークを利用した情報システムやサービスの技術者に求められる技術を修得し、国際社会で協働できるコミュニケーション能力や社会人基礎力を備えたうえで、以下のような到達目標に達した学生に学位を授与する。

ア. 教養・基礎学力

【学部・学科の「卒業認定・学位授与の方針」】

情報モラル、倫理を理解し、実践することができ、専門的知識を支える情報の収集、分析、表現能力を身につけている。また、情報分野とも関わりがある文化、歴史、社会などの教養についても基礎的知識を身につけている。

イ. 専門知識・技術

- ・ ソフトウェア、ハードウェア、ネットワークなどの情報工学の基礎知識を修得している。
- ・ メディア、知能情報など多様な応用分野の知識を修得している。
- ・ 情報システム／サービスに関する仕様や構造が理解でき、適切な指導のもとでの構築や運用ができる。
- ・ 情報システムを用いた問題解決のためのプログラミング技術を持っている。

ウ. コミュニケーション能力

国際化する社会のなかで、個人またはチームとして、システム開発やサービス運用をするためのコミュニケーション能力を身につけている。

エ. 総合課題解決能力

3年次までに情報工学基礎及び専門科目の修得によって得た知識や経験を用いて、卒業研究において課題設定、プログラミングによる問題解決、プレゼンテーションによるコミュニケーション能力の育成を通して、総合課題解決能力を身につけている。

情報工学科の教育課程を修め、上述の到達目標に十分達したと認められた学位取得者は、情報工学・コンピュータサイエンス分野の開発、設計、製造、サービスや新しい技術の研究開発において活躍することができ、わが国の発展に貢献できる。

(4)デザイン学科

デザインの基礎と専門的知識や技術を修得し、デザインの社会的意義と役割を理解しながら、社会に貢献できるデザイナーとして具備すべき以下の力を身につけ、4年次に卒業研究を行い、作品または論文に対する最終審査に合格し、卒業展にて外部評価を受けた学生に学位を授与する。

ア. 教養・基礎学力

デザインに関わる専門力の基盤となる教養と基礎学力を身につけている。

イ. 専門知識・技術

デザイナーとして活躍するために必要なデザイン分野の基本的知識を備え、自ら創出したアイデアを具現化する基本的技術を身につけている。また、デザインの社会的役割を理解し、感性、生活、プロダクト、メディアをキーワードとしたデザイン分野のより専門的な知識・スキルを身につけ、それを応用し、展開することができる。

ウ. 表現・伝達・協働する力

自ら創出したアイデアを第三者に伝えるための表現力と伝達力を身につけ、国際化する社会の中で協働することができる。

エ. 総合問題解決能力

【学部・学科の「卒業認定・学位授与の方針」】

デザイン領域の広がりと社会的意義を理解し、身につけた知識や技術、応用・展開する力、表現・伝達・協働する力を統合して、デザイン分野の課題解決に取り組むことができる。

デザイン学科の教育課程を修め、上述の到達目標に十分達したと認められた学位取得者は、デザイン分野の創作、設計、製造、サービスや新しい技術の研究開発において活躍することができ、わが国の発展に貢献できる。

5. 国際学部

国際学部国際学科の7コースでは以下に示す教育目標を掲げている。

(1) 国際協力コース

開発途上国及び新興国への協力の在り方及びその改善策を考案できる専門的知識と能力の修得

(2) 国際経済コース

世界がともに経済発展を遂げるための具体的な方策を考案できる専門的知識と能力の修得

(3) 国際政治コース

紛争や対立を解決に導く平和・安全保障の未来形を提示し、これを実現する方策を考案できる専門的知識と能力の修得

(4) 国際文化コース

歴史や文化への理解をもとに世界とコミュニケーションする方法を学びこれを積み上げていく方策を考案できる専門的知識と能力の修得

(5) 国際観光コース

大交流時代に相応しい観光の在り方とこれを実現する方策を考案できる専門的知識と能力の修得

(6) 農業総合コース

農業ビジネス・環境保全・農村開発の推進役としてとるべき具体的な行動プランを考案できる専門的知識と能力の修得

(7) 国際スポーツコース

スポーツを通じた国際交流や社会貢献活動を考案し、それを実行できる能力の修得

国際学部国際学科では、基礎科目、外国語科目、専門共通科目、上記の各コース専門科目、及び自由科目の所定単位を修得することで、①三つの力（基礎知識、コミュニケーション力、実践力）を身につけ、②各コースの専門的知識を体系的に修得し、この知識・技能を駆使して、③各コースに関わる国際社会的課題を自ら設定し、必要な情報の収集・分析を行い、他者と協調・協働しながら、その課題を解決できる能力を身につけたと認められる学生に対して、卒業を認定し学士（国際開発）の学位を授与する。

【学部・学科の「卒業認定・学位授与の方針」】

国際学部国際学科の教育課程を修め、以上の教育目標に十分達したと認められた学位取得者は、国際的なビジネスを展開する企業（貿易・商社、金融・証券、メーカー、観光、農業、スポーツ）や国際協力・交流に取り組む国際機関・団体などの職業で、優れた能力を発揮できる。

【学部・学科の「教育課程編成・実施の方針」】

Ⅱ. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 商学部

商学部では、学生が卒業後、それぞれの進路において、その能力を発揮し活躍するために必要な「経営」「経営情報」「流通マーケティング」「国際ビジネス」「会計」の商学分野における知識・技能の修得のため、次のとおり教育の方針や特徴を有するカリキュラムを編成する。また、学生の能動的な研究・議論・発表やグループでのプロジェクト活動を中心とするゼミナールを通じた学びを重視し、主体性や人間力の育成を目指す。

ア. 初年次教育

大学での学修方法の基本や情報関連の技術の修得と活用方法に関する教育を行なう。

イ. 教養教育分野

社会生活において、いかなる状況に直面しても動じない強い精神性をもち、物事を多面的に捉える柔軟な発想のもと、自らの責任と判断に基づいて的確な行動をとることのできる人材を育成する。

ウ. 外国語学修

(ア) 伝統的に、世界で活躍する多くの「優れた外国語運用能力とコミュニケーション能力を有するビジネスパーソン」を輩出してきた本学部ならではの「英語＋第二外国語」教育を実施する。

(イ) 英語は、ビジネスの現場で必要とされる「ビジネス英語」を中心とする。

(ロ) 第二外国語は、多様な言語科目を提供し、学生の興味やニーズに対応する。

(ハ) 充実した海外留学プログラムによる海外での言語運用能力育成や異文化学修の機会を提供する。

エ. 専門教育

(ア) 1・2年次には学部の基礎科目と各学科・各コース専門分野の基礎科目を、3・4年次では各学科・各コース専門分野の発展・応用科目を学ぶカリキュラム編成により、専門性を核とした体系性と順次性のある教育を行なう。

(イ) ビジネスの最先端で活躍する経営者等の実務家による講義を取り入れた授業により、ビジネスの実際を学ぶ教育を行なう。

オ. ゼミナール教育

(ア) 特定の専門分野のより深い知識・技能の学修、及びそれらの成果発表を通じ、論理的思考力や問題解決力の育成、「『知』に基づいた行動力」やリーダーシップ、プレゼンテーションやファシリテーションの能力、さらには、チームとして働く力等を育成する。

(イ) 学生全員が受講する。

カ. キャリア教育

(ア) 職業人としての「キャリア」に関わる、基礎的な能力や社会常識、仕事観・職業観、主体的なキャリア形成能力を身につける教育を行う。

(イ) 職業人としてのキャリア育成のため、国内及び海外の企業等における一定期間の就業体験（インターンシップ）を評価し、単位を認定する。

【学部・学科の「教育課程編成・実施の方針」】

キ. 留学生教育

留学生は日本語の学修に重点を置き、専門科目等の学修便宜を図ることを目的とする「留学生教育プログラム」を導入し、留学生の学修支援を行う。

授業方式は、講義形式の授業方式に加え、アクティブ・ラーニング等を導入し、主体的な学びを経験し、行動力を養うことを目指す。

(1) 経営学科

経営学科の「卒業認定・学位授与の方針」を達成するため、2年次選択の経営、経営情報、流通マーケティングの3つのコースを設置し、次のとおり体系性と順次性を重視したカリキュラムを編成して、経営学の基礎的知識と時代の変化に即した実務能力の修得を目指す。

ア. 学部基礎科目

商学部の学生全員が学ぶべき基礎科目、そして本学科の3つコースへの導入基礎的な科目を1年次に配置し、商学、経営学を基礎から学びつつ、2年進級時にコース選択による学修を行う。

イ. コース基本科目

1年次から4年次まで、各コースの専門分野の基礎から応用までを学ぶ科目を配置する。1・2年次に専門基礎的な科目を置くことで基礎力の充実を図り、3・4年次に発展・応用科目を置き、専門知識と技能、問題発見・課題解決能力を段階的、効果的に高める。

ウ. 「関連科目」と「自由科目」

3つのコースの専門科目のほかに、経済、会計、法律など、近接する関連領域について学ぶことができ、学際的な性格を持つ経営学を幅広く学べる。

<経営コース>

経営に関する多角的な知識、技能の修得を目指し、「企業と経営」、「組織とヒト」、「戦略と管理」に分類した専門科目を年次進行に合わせて順次的・体系的に配置する。

<経営情報コース>

経営情報の分析能力やITスキルの修得を目指し、「経営と情報」及び「ITスキル」の2分野の専門科目を年次進行に合わせて順次的・体系的に配置する。

<流通マーケティングコース>

「流通」と「マーケティング」に関する専門知識、技能の修得を目指し、この2分野の専門科目を年次進行に合わせて順次的・体系的に配置する。

(2) 国際ビジネス学科

国際ビジネス学科は、学部共通カリキュラムに加え、「国際ビジネスの舞台で活躍できる人材」を育成すべく、国際ビジネスに関連する専門知識と実践的なコミュニケーション・語学力を総合的に修得できるよう、次のとおり本学科独自のカリキュラムを編成する。

ア. 学修の共通基盤となる必修2科目を1年次に配置する。

【学部・学科の「教育課程編成・実施の方針」】

- イ. 国際ビジネスの基本である「貿易」、特に近年グローバル化が進展している「サービス・ビジネス」、英語とコミュニケーション学の両方を学ぶ「コミュニケーション」の3つの分野から成り立っており、3分野に必修科目を配置することで特定分野に偏らない総合力の修得を確保する。
- ウ. ビジネス英語能力を修得するために、本学科では3年次まで必修英語科目を配置する。さらに、本学科独自の選択英語科目を数多く配置することで、学生が求める、より高度なレベル・内容に応じたビジネス英語能力の修得を可能とする。
- エ. 卒業後、就職を希望する業界に合わせて、3分野の学修の組み合わせの比重を調整できるカリキュラムを編成する。
 - (ア) 貿易・物流業界の企業やグローバルな事業展開をする企業で活躍したいという場合には、「貿易」分野と「コミュニケーション」分野に比重をおいて学修する。
 - (イ) 旅行・観光、金融をはじめとするサービス業界で活躍したいという場合には、「サービス・ビジネス」分野と「コミュニケーション」分野に比重をおいて学修する。

(3) 会計学科

会計学科の教育目標を達成するために、学部共通カリキュラムに加え、次のとおり、体系的と順次性を考慮した本学科独自のカリキュラムを編成する。

- ア. 会計に関連する理論と実践の両面からの学修を重視する。
- イ. 会計分野の基礎科目（1年次）から、基礎力拡充科目（2年次）を経て、発展・応用科目（3・4年次）へと段階的に、体系的かつ順次性を考慮した学修を可能とする。特に会計分野の基礎科目は、 Semester制の半期集中科目とし、短期間で所定のレベルに到達することができる。
- ウ. 発展・応用科目（3・4年次）には、(ア)会計基準と制度会計、(イ)経営管理と意思決定会計、(ウ)国際会計とその他の会計の3領域にわたる科目を配置し、将来の進路に応じた、国際、環境など多様な側面からの会計領域を学修できる。
- エ. 会計分野の専門科目の学修と並行して、学際領域である商法（会社法）、租税法及び経済に関する科目を履修することによって、より深い会計領域を学修できる。
- オ. 会計に関連する資格・検定の取得に役立つ科目を配置する。

2. 政経学部

政経学部の教育課程は、学科ごとの専門性を基盤に、複合学部としての特長を活用しながら、様々な面で異なる他者との積極的な協働により、現前する課題を発見しこれに現実的かつ総合的に対処できる能力の開発を目指したものとなっている。その特色は、以下の通りである。

- ア. 学部共通基礎科目と体系的な教養教育科目の設置による基礎的素養の涵養
- イ. 基礎から応用への段階的接近を意識し、学問的順次性・体系的に沿って配当された専門科目

【学部・学科の「教育課程編成・実施の方針」】

ウ. 1年次から選択可能な専門分野

エ. 基礎学力の確認と専門教育への橋渡しとしての初年次教育、専門性の追究と他者との協働を実践するアクティブ・ラーニング型の演習、能力別学級編成を行う外国語の分野で実施する少人数教育と、そうした教育を通じた自律的な課題取り組み姿勢の獲得

オ. 自身の相対化と他者性の尊重に資するための多様な語学・地域研究科目の設置

(1) 法律政治学科

法律政治学科では、リーガルマインドの養成と実践的な政治学的知識の修得、それらを基盤に課題と解決策を見だし、他者と協働してその実現に当たることのできる能力を念頭に、現実の法律・政治現象を対象にした科目と、それを読み解くための理論的科目、修得した知識・枠組みを活用する演習的科目を、順次性と体系性を保つ形で配当している。

(2) 経済学科

経済学科では、実践的な経済学的知識の修得、それを基盤に課題と解決策を見だし、他者と協働してその実現に当たることのできる能力を念頭に、現実の経済現象を対象にした科目と、それを読み解くための理論的科目、修得した知識・枠組みを活用する演習的科目を、順次性と体系性を保つ形で配当している。

3. 外国語学部

外国語学部は、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえ、言語運用能力とコミュニケーション能力に加えて文化や社会に関する幅広い知識と教養の修得や自律的学修能力の養成に必要とする教育課程を編成し、実施する。

(1) 英米語学科

英米語学科では、高度な英語の運用能力を修得するための科目と、自ら進んで異文化交流に従事する能力を持った学生を養成する教育課程を編成し、実施する。

ア. 教育課程を編成するにあたっての目的と具体的な方針

教育課程の編成にあたっては「卒業認定・学位授与の方針」に謳う人材育成のために、以下の4点を重視する。科目の配置においては、基礎から応用に向かう順次性、科目の目標・方法の系統性にも配慮する。

(7) 英語に関する専門的知識を修得し、その知識を応用して正確なコミュニケーションを行う、あるいはその知識を英語教育などの活動に活かす能力を身につける。

- ・ 英語の必修科目は少人数で実施する。
- ・ 特にネイティブ教員が指導する英語による双方向型の必修科目は1クラス15人程度で開講する。

【学部・学科の「教育課程編成・実施の方針」】

- ・ スピーチ、プレゼンテーション、ディベートなど、実践的コミュニケーション能力を高めることを目的とするアクティブ・ラーニングを積極的に導入した科目を設置する。
- (イ) 社会生活での幅広い話題について自由に話ができ、明確かつ詳細に自分の意見を表現できる言語運用能力と論理力、知識を修得する。
- ・ 英語、コミュニケーション及び英語教育に関連する多彩な学問分野の知識を深めるゼミナールを2年間開講する。
 - ・ 教養教育科目やキャリア支援科目、情報リテラシー科目を設置する。
 - ・ 初年次教育として、日本語による様々な表現技法の訓練をする科目や本学の歴史、職業や防災に関連する基本的知識を修得する科目を設置する。
- (ロ) 第二外国語について、聴く・話す・読む・書くことができる言語運用能力と知識を修得する。
- ・ 英語以外の第二外国語科目を2年間にわたる必修科目として開講する。
 - ・ 第二外国語の修得にさらに力を入れる学生のために副専攻制度を設置する。
- (ハ) 異文化を理解、尊重し、世界の人々と協働して諸問題を解決しようとする姿勢を持つ。さらに、自ら目標を設定し、その目標を達成する過程の中で、自律的に学ぶ力を養う。
- ・ 英語圏諸国への短期・長期研修プログラムを実施する。
 - ・ 必修科目の能力別クラス編成やTOEICに基づいた進級要件など、自律的学修能力を高めるプログラムを導入する。
 - ・ 初年次の必修授業と、3・4年次のゼミナールにおいて、主体的な問題発見・解決能力を向上させる授業を積極的に採用する。

イ. 学修成果の評価

学修成果の評価については、予め、学生に各授業科目の到達目標、授業計画、予習・復習及び成績評価の方法等を明示したうえで、卒業認定・学位授与方針に沿った学修過程を重視しつつ、成績評価基準に基づき厳格に行う。

(2) 中国語学科

中国語学科は、中国語に関する堅実な基礎知識と高度な運用能力を目指すための専門科目群ならびに自ら進んで異文化交流に従事する能力を持った学生を養成する教育課程を編成し、実施する。また、コミュニケーション中国語と、ビジネス中国語という特殊化した科目群も設置する。そして、中国・中国語圏地域に関する各面の知識を学ぶため、言語関連では広東語、台湾語と中国語研究を、文化関連では、中国の歴史、社会事情、経済、文学、観光などに関する課程を編成し実施する。

ア. 教育課程を編成するにあたっての目的と具体的な方針

教育課程の編成にあたっては「卒業認定・学位授与の方針」に謳う人材育成のために、以下の4点を重視する。科目の配当においては、基礎から応用に向かう順次性、科目の目標・方法の系統性にも配慮する。

【学部・学科の「教育課程編成・実施の方針」】

(7) 実践的で正確な中国語の運用能力とコミュニケーションの能力の向上

- ・ 中国語の必修科目は少人数で実施する。初習外国語として学修を開始する学生を対象に、1年次に専門科目必修科目として、中国語の四技能をバランスよく学ぶ総合中国語の課程を編成する。また2年次以降の専門科目必修科目ではそれぞれ「読む」「書く」「聴く」「話す」に重点を置く科目群を編成する。
- ・ 中国語母語話者の学生や中学校・高校時代から中国語を学修し、比較的高い中国語能力を有する学生を対象に、Sクラス（既習者クラス）を設ける。
- ・ ネイティブ教員が指導する中国語による双方向型の必修科目は1クラス15人程度で開講する。
- ・ スピーチ、プレゼンテーション、ディベートなど、実践的コミュニケーション能力を高めることを目的とするアクティブ・ラーニングを積極的に導入した科目を設置する。

(4) 中国語圏の文化や社会に関する幅広い知識と教養の修得と、社会人としての汎用技能の向上

- ・ 日中間の人的、物的な交流が様々な分野においてますます拡大、緊密化していることを踏まえ、「コミュニケーション中国語」と「ビジネス中国語」の二つのコースを設置する。
- ・ 中国語だけでなく、中国・中国語圏の文化などにも幅広い知識を持たせ、また、学生の多様な興味や関心を満たすために、応用中国語を中心とした科目群（コース科目）、中国語学と文学を中心とした科目群、中国社会と文化に関連する事柄を中心とした科目群の三ブロックに分けて、基礎から応用の科目を設置する。
- ・ 中国語、コミュニケーション及び中国語圏文化に関する多彩な学問分野の知識を深めるためゼミナールを2年間開講する。
- ・ 教養教育科目やキャリア支援科目、情報リテラシー科目を設置する。

(6) 留学などの異文化体験を通じた、広い視野で多面的に物事を考え、協働することのできる人材の育成

- ・ 中国語圏諸国への短期・長期研修プログラムを実施する。
- ・ 中国語以外の第二外国語科目を2年間にわたる必修科目として開講する。
- ・ 第二外国語の修得にさらに力を入れる学生のために副専攻制度を設置する。

(5) 自律的学修能力の育成

- ・ 必修科目の能力別クラス編成やコース制による履修モデルの提示など、自律的学修能力を高めるカリキュラムを編成する。
- ・ 初年次の必修授業と、3・4年次のゼミナールにおいて、大学生としてふさわしい主体的・能動的な学修スタイルを修得させる。
- ・ 初年次教育では、日本語による様々な表現法の訓練をする科目や本学の歴史、職業や防災に関連する基本的知識を修得させる科目を設置する。

イ. 学修成果の評価

【学部・学科の「教育課程編成・実施の方針」】

学修成果の評価については、予め、学生に各授業科目の到達目標、授業計画、予習・復習及び成績評価の方法等を明示したうえで、卒業認定・学位授与方針に沿った学修過程を重視しつつ、成績評価基準に基づき厳格に行う。

(3) スペイン語学科

スペイン語学科は、言語並びに個別言語（スペイン語）の専門家を養成することを目指す。

スペイン語を研究対象として見る眼を持ち、スペイン語を研究する方法を身に付け、知的活動に母語とスペイン語の運用力を活かし、母語文化圏とスペイン語文化圏の特性を理解し、相互理解と協調協働を可能とする力を持った青年を育てることを念頭に教育課程を編成する。

このため、ヒューマン・コミュニケーションを重視した学修環境（人間関係）構築のため、オリエンテーション・キャンプを実施、ワールドカフェ方式討論会を組み入れたガイダンスや1年次生に上級生が文法の基礎ドリルを教えることによって上級生も共に知識の向上と定着を図る相互学習システムなど、効果的な教育方法を取り入れた教育課程を編成し、実施する。

ア. 教育課程を編成するにあたっての目的と具体的な方針

(7) 実践的で正確なスペイン語の運用能力とコミュニケーションの能力の向上

専門科目は、大きく必修科目、選択科目Ⅰ及び選択科目Ⅱの三つの構成とする。各学年に配当する必修科目（初級・中級・上級）は、文法、会話、作文、講読などの言語運用と、言語や文化を学問として扱うための基礎から応用を構築するための科目群を編成する。

1年次から2年次にかけての初級・中級科目では、スペイン語の基礎文法や語彙など運用力の基本材料を効率よく提示・概観するとともに、スペイン語音声の自然なリズムとイントネーションの指導を通して実践的な表現力を養う。

これらの初級・中級科目は同時に、上級科目の入門を兼ねており、1年次科目においては動詞の活用を暗記、単語や熟語の学修といった知的単純作業と並行して、日本語やその他の言語との対照研究や、自分達で文法のルールを見つけ出して言葉で説明する練習にも取り組む。

3年次以降の上級科目は初級・中級科目と連携して、知的に高度な内容の議論や論述ができる力を養う授業科目を、講読・作文のほか、4年次配当の総合表現演習で編成する。

選択科目Ⅰは基本的なスペイン語・スペイン語圏文化に関する知識を、また選択科目Ⅱはコースに対応したやや高度な学術的知識を身に付けられるように科目を設定する。

(4) スペイン語圏の文化や社会に関する幅広い知識と教養の修得と、社会人としての汎用技能の向上

【学部・学科の「教育課程編成・実施の方針」】

スペイン語学科は、学生を系統的・効率的履修に誘導するため、「スペイン語コミュニケーションコース」と「スペイン語圏文化コース」の2コースを設定する。

これは2年次にいずれかを選択して以後の履修科目を決定するもので、スペイン語コミュニケーションコースは、スペイン語の運用とスペイン語学とに興味のある学生や、語学教師、言語研究者を目指す学生向けのコースとして設定する。音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論、対照研究などスペイン語を学問の対象として研究する態度を涵養するとともに、読む、書く、話す、聞くというスペイン語の四技能をバランスよく学修できるように科目を配当する。

スペイン語圏文化コースは、スペイン語を使う人々の文化的背景を総合的に学ぶコースで、異文化理解やスペイン語圏の社会事情などに興味のある学生向けに科目を配当する。地域研究や文学・歴史の研究を主体に、情報の受信発信のためのスキルを学び、並行してスペイン語の運用力にも磨きをかける教育課程を編成する。

3年次と4年次のゼミナールは、一貫履修を原則とし、ここの指導教員が提示するテーマに沿って、文字や音声による情報の取得、作文の技術、効果的な情報発信の仕方、翻訳法、文学作品の研究、スペイン語圏の文化などを専門科目と連携しつつ修得する。

幅広い教養の修得と社会人としての汎用技能の向上に必要とする教養教育科目やキャリア支援科目、情報リテラシー科目を設置する。

(ウ) 留学などの異文化体験を通じた、広い視野で多面的に物事を考え、協働することのできる人材の育成

スペインへの短期研修ならびにスペインとメキシコへの長期研修などの留学制度を設け、多くの学生が言語文化に直接触れる学修と実践の機会を活かすことができるように指導と支援を行う。

スペイン語以外の第二外国語科目を2年間にわたる必修科目として開講する。さらに、第二外国語の修得にさらに力を入れる学生のために副専攻制度を設置する。

(エ) 自律的学修能力の育成

必修科目の能力別クラス編成やコース制による履修モデルの提示など、自律的学修能力を高めるカリキュラムを編成する。また、初年次の必修授業と、3・4年次のゼミナールにおいて、大学生としてふさわしい主体的・能動的な学修スタイルを修得させる。

初年次教育では、日本語による様々な表現法の訓練をする科目や本学の歴史、職業や防災に関連する基本的知識を修得させる科目を設置する。

イ. 学修成果の評価

学修成果の評価については、予め、学生に各授業科目の到達目標、授業計画、予習・復習及び成績評価の方法等を明示したうえで、卒業認定・学位授与方針に沿った学修過程を重視しつつ、成績評価基準に基づき厳格に行う。

【学部・学科の「教育課程編成・実施の方針」】

4. 工学部

工学部では、幅広い教養と基礎学力を備え、企業における技術者として活躍できるような専門知識と技術を修得し、国際化する社会で協働できるコミュニケーション能力を身に付けることが可能なカリキュラムを編成する。

各学科に用意された履修コースに沿って学修することにより、学生自らがキャリアを考え、将来の進路に直結する学修を可能とし、国際化が進んだ今日必要とされ、海外で活躍できる技術コミュニケーション能力と国際的なセンス、行動力を持ったエンジニアを育成できるような外国語教育と合わせて数量的かつ科学的思考、特にコンピュータ・リテラシーを身に付けることが可能なカリキュラムを編成する。実験・実習・演習科目だけでなく、各学科の多くの講義科目や数学や物理学等の専門基礎科目が Active Learning（双方向学修）となるよう配慮する。

さらに、複雑化・大規模化する技術対象に関する問題解決にあたり、学際的工学知識を総合して課題を解決できるような能力を身に付けることができるように配慮されたカリキュラムを編成する。

(1) 機械システム工学科

講義と実験・実習を連動させて体系的に授業を構成し、物理・数学などを専門基礎科目と位置づけ、機械システム工学実験及び卒業研究の必修科目を軸に各種の専門科目を学ぶ。

細分化されたコース科目群の修学を通して、各分野の技術者育成を目指す。また、国際化する社会の中で英語によるコミュニケーション能力を高め、留学生に対しては総合的な日本語教育の充実を図る。他と協働できる社会人基礎力の向上、将来の技術者育成のための心構えなど、重要な人格形成をも視野に入れて教育を行う。

機械システム工学科では、「ものづくり」を基本とした技術者教育を目指し、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成する。

- ア. 機械工学とその周辺技術の学修を通して幅広い視野を培い、自らが進んで社会の発展に貢献する人材育成のための実験と実習に重きを置きコンピュータ技術を加味したカリキュラムの編成
- イ. 国内だけでなく海外でも信頼される機械工学分野のエンジニアとして協働できるコミュニケーション能力を有する人材育成のための外国語科目編成
- ウ. 専門分野の位置づけとその分野に関連した職業選択を明確にする履修コース制の採用
- エ. キャリア・デザイン支援のために1年前期に機械システム工学基礎を導入し、3年後期中に卒業研究の配属を行い、就職活動を支援するカリキュラム編成

(2) 電子システム工学科

「ものづくり」を基本として、講義と実験・実習を連動させた実践的かつ体系的な授業構成とし、物理・数学などを専門基礎科目と位置づけ、電子工学実験の大部分及び卒業研究の必修科目を軸に各種の専門科目を学ぶ。さらに細分化されたコース科目群の修学を通して、各分野の技術者育成を目指している。また、国際化する社会の中で英語によるコミ

【学部・学科の「教育課程編成・実施の方針」】

コミュニケーション能力を高め、留学生に対しては総合的な日本語教育の充実を図る。他と協働できる社会人基礎力の向上、将来の技術者育成のための心構えなど、重要な人格形成も視野に入れた教育を行う。

電子システム工学科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成する。

- ア. 1年次は基礎学力差を前提として回路やコンピュータの基礎を学修すると共に実習を行い、2年次以降の専門科目の学修が円滑に進むよう配慮したカリキュラムの編成。
- イ. 国内だけでなく海外でも信頼される電子工学分野のエンジニアとして協働できるコミュニケーション能力を育成できるような外国語科目編成。
- ウ. 専門分野の位置づけとその分野に関連した職業選択を明確にする履修コース制の採用。
- エ. キャリア・デザイン支援のために1年前期にシステムエンジニア養成講座を導入し、3年後期中に卒業研究の配属を行い、就職活動を支援するカリキュラム編成。

(3) 情報工学科

理工系学部情報系学科のためのコンピュータサイエンス教育を基本とした科目構成に加えて、実践的な演習科目を中心としてカリキュラムを編成する。プログラミング能力を段階的に修得できるように、同一演習科目を前後期に配置する。

具体的には、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成する。

- ア. 専門科目については、情報工学カリキュラム標準に基づいた上で、デザイン学科との共同開講によって、多様な応用分野の履修を可能とするカリキュラム編成。
- イ. 国内だけでなく海外でも信頼される情報工学分野のエンジニアとして協働できるコミュニケーション能力を有する人材育成のための外国語科目編成。
- ウ. 専門分野の位置づけとその分野に関連した職業選択を明確にする履修コース制の採用。
- エ. キャリア・デザイン支援のために1年前期に情報工学基礎ゼミ（科目名確認）を導入し、3年後期中に卒業研究の配属を行い、就職活動を支援するカリキュラム編成。

(4) デザイン学科

多様なデザイン領域の中から学生の個性や能力に応じた選択肢を準備し、基礎と専門の知識と技術を修得できるようにカリキュラムを編成する。

具体的には、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成する。

- ア. 専門科目については、デザイン学科のカリキュラム標準に基づいた上で、情報工学科との共同開講によって、多様な応用分野の履修を可能とするカリキュラム編成。
- イ. 国内だけでなく海外でも信頼されるデザイナーとして協働できるコミュニケーション能力を育成できるような外国語科目編成。
- ウ. 専門分野の位置づけとその分野に関連した職業選択を明確にする履修コース制の採用。

【学部・学科の「教育課程編成・実施の方針」】

エ. キャリア・デザイン支援のために、少人数ゼミナール形式でアカデミックスキル、デザインの多様な領域と社会における意義の理解、基礎的創作力とコンピュータ技術を育成するカリキュラムを1年次に編成し、3年後期中に卒業研究の配属を行い、就職活動を支援するカリキュラム編成。

5. 国際学部

国際学部国際学科では次のとおり、「教育課程編成・実施の方針」を定めて、これに基づき、教育課程を編成し、実施する。

ア. 教育課程を編成するにあたっての目的と具体的な方針

国際学部国際学科では、「卒業認定・学位授与の方針」を達成するために教育課程を編成する。具体的には三つの力（基礎知識、コミュニケーション力、実践力）と、各コースの専門的知識の体系的な修得を通して、グローバル化時代に活躍できる人材の育成を目指す。そのために、基礎知識、コミュニケーション力と実践力を身につける科目や専門知識を養う科目を、年次進行に合わせ順次的・体系的に配置する。

基礎知識を養う科目として、教養科目に加え、基礎的アカデミックスキル、言語処理、数理処理にかかわる科目を1年次から2年次にかけて配置する。

コミュニケーション力を養う科目として外国語科目を設置する。外国語科目は英語に加え、第二外国語の履修を1年次から2年間必修とする。日本人の学生は、第二外国語として、主にアジア諸国の言語の中から一言語選択して2年間学習する。外国人留学生は第2外国語として日本語を学習する。さらに3年次以降も外国語の学習を継続できるように、上級科目を置く。

実践力を養うために、学生の海外留学・国内研修・ボランティア活動やキャリア教育を支援する。

専門知識については、1年次にグローバル人材育成のための入門科目と各コースの入門科目を配置する。2年次は基礎から専門への移行期と位置づけ、専門共通科目とコース専門科目(必修)を配置する。3年次以降はコース専門科目(選択)の履修を通じて、さらに各コースの教育目標に必要な知識を修得させる。

なお、2年、3年、4年と3年間かけて履修する専門ゼミナールでは、少人数教育の枠組みで、上記基礎知識、コミュニケーション力、実践力、専門知識の育成を組織的に進め、卒業論文でその集大成を行う。

以上のように、専門的知識の体系的な理解、社会生活に必要な汎用的技能、主体的学修能力、実社会での課題発見・解決能力を身につけることができる教育課程を編成する。

イ. 学修成果の評価

学修成果の評価については、予め、学生に各授業科目の到達目標、授業計画、予習・復習及び成績評価の方法等を明示したうえで、卒業認定・学位授与方針に沿った学修過程を重視しつつ、成績評価基準に基づき厳格に行う。

【学部・学科の「入学者受け入れの方針」】

Ⅲ. 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

1. 商学部

ア. 入学者に求める知識・技能、意欲・態度

商学部では、学生が、商学分野における専門的な知識・技能を修得し、さらに、それらの『知』に基づいた行動力」を身につけることのできる教育を通じて、グローバル時代に活躍できる人材の育成・輩出を目指している。そのために必要な、基本的知識・技能、思考力や主体性、協働して学ぶ態度や意欲等を備えた次のような人を求めます。

- (ア) 経営、経営情報、流通マーケティング、国際ビジネス、会計等、商学分野の学修に関心を持ち、旺盛な学習意欲をもつ人。
- (イ) 授業はもちろん、目的意識をもって大学での様々な活動に積極的に参加し、自分自身の成長を図ろうとする人。
- (ウ) 高等学校で修得すべき基本的な知識、言語運用能力、論理的思考能力および社会的適応能力をもつ人。

イ. 入学者選抜方法

以上のような能力・資質を有する者を入学者として選抜するため、以下の通り審査します。

- (ア) 高校での活動実績や人物を、主に面接・口頭試問を通じて審査する。
- (イ) 筆記試験を通じて学力レベルを審査する。

(1) 経営学科

経営学科の教育目標に賛同し、その達成のために必要となる意欲、基礎的な言語能力、数値処理能力、ITスキルなどを養ってきた以下のような人を求めます。

- ア. 企業経営の知識・理論・技能を身につけ、社会、企業に貢献したいと考えている人。
- イ. 情報化社会に対応した経営情報分析能力、ITスキルなどを身につけ、社会、企業に貢献したいと考えている人。
- ウ. 流通やマーケティング分野の知識・理論・技能を身につけ、社会や企業に貢献したいと考えている人。

(2) 国際ビジネス学科

国際ビジネス学科では、前述の本学部が求める入学者像に加え、本学科の教育目標に賛同し、本学科での学びを通じ身につけた能力を活かして国際社会で活躍したいという強い意欲をもつ人物を求めています。加えて、次のような特徴を有する人を求めます。

- ア. 貿易・旅行業などに関連する資格を取得し、将来的にその業界で活躍したいと考えている人。
- イ. TOEICやTOEFLなどの英語資格試験に積極的にチャレンジしてきた人、もしくは入学後チャレンジする強い意欲をもつ人。

【学部・学科の「入学者受け入れの方針」】

ウ．海外生活や留学、外国人との国際交流活動の経験を有する人、もしくは入学後、そのような活動に取り組みたいと考えている人。

(3) 会計学科

会計学科では、本学科の教育目標に賛同し、会計に関する専門的知識と技能を身につけ、それをもとに、幅広く、ビジネス社会において活躍することを強く希望する人を求めます。さらに次のような特徴を有する人を求めています。

- ア．会計情報や職業的会計人の社会的な役割に強い関心を持ち、深く考察してみたいとの知的探究心を備えている人
- イ．各種の検定試験へチャレンジしているなど、段階を追った学修ができるだけの基礎的な学習習慣が身についている人

2. 政経学部

政経学部は、法律学・政治学・経済学という社会科学の基盤的思考枠組みに立脚し、現前する課題に他者と協働の上、現場の第一線で総合的かつ現実的見地から対処しようとする意欲に溢れた人材を広く受け入れることを入学者受け入れの方針とし、高等学校で修得すべき基本的な知識に加え、グローバル化への興味と論理的思考力を持ち、国内外の社会現象への強い関心と行動力を持った人材を求めます。

そのため入学者の選抜においてはそれぞれの入試区分ごとに、応募書類審査、筆記試験、面接等の方法を単独または組み合わせて用い、学力水準や学修への意欲、学部が求める人材との適合性等を評価します。その際、高校時代の留学・ボランティア活動や、文化・芸術面の受賞歴を一定の評価の対象とする入試区分も設けます。また学部内に多様な民族・文化への対応力を実践する場を設けるため、国籍を問わず広く留学生に門戸を開きます。

(1) 法律政治学科

法律政治学科では、国内外の法律・政治・行政の現場において、国際性や専門性、人間性を活用し、地域社会やグローバル社会を支える志を持った人材を求めます。

(2) 経済学科

経済学科では、国内外の経済・経営の現場において、国際性や専門性、人間性を活用し、地域社会やグローバル社会を支える志を持った人材を求めます。

3. 外国語学部

外国語学部は、国際交流の新たな道を切り開くチャレンジ精神を持つ外国語スペシャリストを目指す人を広く受け入れることを入学者受け入れの方針とし、高等学校で修得すべき、基本的な理解力、表現力、言語運用能力及び目標実現のための実行力を持った熱意ある人を求めます。

【学部・学科の「入学者受け入れの方針」】

(1) 英米語学科

英米語学科は、英語圏を中心とした地域の文化・社会に強い関心を持ち、留学等の異文化体験或いは交流プログラムに積極的に参加し、将来、国際的な相互文化交流に貢献したいと考えている人を求めます。さらに次の要件を満たしていることが望まれます。

- ア. 高校卒業程度の英語の4技能（聴く・話す・読む・書く）と英文法を偏りなく学修し、英語の運用能力を自律的に伸ばす意欲がある。
- イ. 世界に活動の場を求め、英語を使う仕事を目指している。
- ウ. 英語学習の基礎である母語（主に日本語）を使用し、大学レベルの教養を修める能力があり、日常的に自律的学修を実践している。
- エ. 国内外での異文化体験があり、文化活動、スポーツ、ボランティアなどにも積極的に参加し、連帯協力の重要性を認識している。

選抜試験は、面接・口頭試問を重視するAO入試・推薦試験と、筆記で学力を審査する一般試験の2種類を用意します。前者では、高校時代の様々な活動と日常の英語学習（音読、日常会話）を多面的に評価します。後者では、英語を重視した筆記試験（英文読解力、英文法知識、基本的な英会話表現等を問う）を実施します。

(2) 中国語学科

中国語学科は、中国・中国語圏の文化に興味をもち、将来、何らかの形や分野において、高度な中国語運用能力と、中国・中国語圏に関する幅広い知識でもって積極的に携わっていきたい人を次のとおり求めます。

中国語の学習に励み、卒業時点で高度な中国語運用能力を持てるよう努力できる人。外国語学習は多大な時間を要することを自覚し、入学後、学習意欲と学習習慣を確立することと、学習時間を最大限確保することのできる人。協調心と集団意識をもち、周囲の学生や教員などと積極的に交流して良好な関係を保ち、明るい生活と学習環境や、相互学習の雰囲気を作り出すことに積極的である人。留学や海外インターンシップ、留学生との交流などによる異文化摂取や、日本国内及び学内の文化活動などに積極的に参加する意欲のある人。

選抜試験は、面接・口頭試問を重視するAO入試・推薦試験と、筆記で学力を審査する一般試験の2種類を用意する。前者では、高校時代の様々な活動と日常の学習成果を多面的に評価する。後者では、言語を重視した筆記試験（読解力、文法知識、基本的な表現等を問う）を実施します。

(3) スペイン語学科

スペイン語学科は母語の言語文化に強い興味と関心をも持ち、スペイン語とスペイン語圏の文化にも同等の興味と関心を持つ人を積極的に受け入れます。次の要件のいくつかに該当することが望まれます。

【学部・学科の「入学者受け入れの方針」】

ア. スペイン語学科入学を希望する人で、国内外において学校教育による12年の課程を修了した人にとっては、いわゆる理系・文系・技術系・芸術系などの区別無く、その課程において開設されている全ての教科を履修していること。

また、個々人の学修歴などから、学校教育による12年の課程を修了したものと同等以上の学力を有すると判断される人においては、あらゆる学問・技術・芸術の分野に興味を持続し、幅広い経験と知識を持っていること。

イ. 日本語や英語その他の外国語や文化、また「言語」そのものに強い好奇心と興味を持っていること。

ウ. 異文化体験や集団的な活動に積極的に参加した経験があること。

選抜試験は、面接・口頭試問を重視するAO入試・推薦試験と、筆記で学力を審査する一般試験の2種類を用意します。前者では、高校時代の様々な活動と日常の英語学習（音読、日常会話）を多面的に評価します。後者では、英語を重視した筆記試験（英文読解力、英文法知識、基本的な英会話表現等を問う）を実施します。

4. 工学部

工学部は、国際性、専門性、人間性を備えた人材の育成という本学の教育目標に共感し、わが国および世界の発展に貢献したいと希望する学生を積極的に受け入れます。

工学部が志願者に期待する項目を以下に示します。

ア. 「ものづくり」や技術への好奇心と工学への興味を抱き、人間教育に基づいた工学技術を習得したい人。

イ. 海外で活躍できる技術コミュニケーション力とともに国際的なセンスと行動力を身に付けたい人。

ウ. 高等学校で修得すべき基本的な知識、言語運用能力、論理的思考能力および社会的適応能力を持った熱意ある人。

エ. 国際化の推進のためには多様な人種、出身の学生によって、工学部を構成する必要があるとの認識のもと、次のような留学生受け入れ方針を定め、積極的な留学生の選抜を行う。

(7) 社会が直面する課題の解決に率先して取り組む開拓者精神にあふれ、国際社会の発展と人類の未来への貢献をめざし、日本語コミュニケーション能力を有するエンジニアとして活躍したいとの意欲にあふれる人。

(4) 物事の本質を的確に把握する洞察力と信念に裏付けられた行動力ならびに国際的センスをもつエンジニアをめざす人。

(5) 世界の人々との相互理解を深めようとする気概を有し、最先端の研究開発に挑戦できるエンジニアをめざす人。

【学部・学科の「入学者受け入れの方針」】

入学者の選抜においては、試験の種別に応じ、上述の要件を応募書類、面接、筆記試験等に基づき判断します。

(1) 機械システム工学科

機械を設計・開発し、造り、動かすことに強い興味を持ち、学修意欲旺盛で、国際社会で活躍することによって世界に貢献したいという熱意を持っている人を求めます。

さらに以下の要件を満たしていることが望まれます。

- ア. 高等学校において理数系の科目を履修していること。
- イ. 大学での学修に必要な基礎学力の素養を兼ね備えていること。
- ウ. 機械システム工学分野の知識・技術を修得しようとする熱意を有すること。

入学者の選抜においては、AO入試や推薦入試、一般入試等の試験の種別に応じ、上述の要件を応募書類、面接、筆記試験等に基づき判断します。

(2) 電子システム工学科

回路、通信、計測、制御、材料などエレクトロニクスの主要分野、およびこれらを支えるプログラミング技術とシステム構成（応用）技術について強い関心を持ち、社会に貢献したい、ならびに国際社会で活躍したいという熱意を持っている人を求めます。

さらに以下の要件を満たしていることが望まれます。

- ア. 高等学校において理数系の科目を履修していること。
- イ. 大学での学修に必要な基礎学力の素養を兼ね備えていること。
- ウ. 電子システム工学分野の知識・技術を修得しようとする熱意を有すること。

入学者の選抜においては、AO入試や推薦入試、一般入試等の試験の種別に応じ、上述の要件を応募書類、面接、筆記試験等に基づき判断します。

(3) 情報工学科

コンピュータおよびネットワークを利用した情報システム／サービスの技術に興味を持ち、自ら進んで技術を修得し、その技術を広く社会に役立てようとする熱意のある人を求めます。

さらに以下の要件を満たしていることが望まれます。

- ア. 高等学校において理数系の科目を履修していること。
- イ. 大学での学修に必要な基礎学力の素養を兼ね備えていること。
- ウ. 情報工学分野の知識・技術を修得しようとする熱意を有すること。

入学者の選抜においては、AO入試や推薦入試、一般入試等の試験の種別に応じ、上述の要件を応募書類、面接、筆記試験等に基づき判断します。

【学部・学科の「入学者受け入れの方針」】

(4)デザイン学科

デザインに関心・興味があり、意欲的に学修し、デザインの力で解決する方法を見つけ出そうとする好奇心と意欲を持ち、社会や生活全般に関心があり、人や環境のために役立ちたいと思っている人を求めます。

さらに以下の要件を満たしていることが望まれます。

ア. 高等学校において所定の課程を修了し、科目を履修していること。

イ. 大学での学修に必要な基礎学力の素養を兼ね備えていること。

ウ. デザインに強い関心・興味があり、描くこと、創作すること、表現することが好きで、調べることや分析することが好きであること。

入学者の選抜においては、AO入試や推薦入試、一般入試等の試験の種別に応じ、上述の要件を応募書類、面接、筆記試験等に基づき判断します。

5. 国際学部

国際学部国際学科では、三つの力（基礎知識、コミュニケーション力、実践力）を身につけ、選択したコースの専門的知識を体系的に修得することで、グローバル化時代に活躍できる人材の育成を目指します。

また、外国語によるコミュニケーション力を修得することが卒業要件であり、授業と留学を通じて海外事情を学び、社会貢献活動に積極的に参加することで実践力を身につけることが学部の目標です。

従って、受験時には、十分な日本語(国語)の運用能力を備え、高等学校で修得すべき基本的な知識・技能を持ち、これらを活用して実社会における様々な課題を解決しようとする意欲を有していることが望まれます。

入学者の選抜は、試験の種別に応じ、上記の要件を面接、筆記試験、応募書類等に基づき判断する。また、ボランティア活動や海外留学体験者を歓迎する。外国人留学生など多様なバックグラウンドの学生を受け入れます。